

# 地域に学び、地域貢献を目指す 名寄市立大学 地域交流センター

**平** 成18年4月に開学した名寄市立大学は「地域社会の教育的活用と地域貢献」を大学の基本理念の一つに掲げ、それを推進するための組織として「地域交流センター」を設置しています。

地域交流センターは地域活動の総合窓口・調整機関として「地域のさまざまなボランティア活動を通じて、学生と地域の交流を深めていくこと」「行政機関や地域諸団体のアドバイザー・講師派遣などの窓口になり、教員の専門性を活かした大学による地域貢献を促進

していくこと」の2つの役割を担っています。地域交流センターの具体的な活動方針については、学内教員および市民、学生から成る運営委員会で協議して決めていきます。

今年度の主な活動として、学生サポートチーム（略称SST）への支援、ボランティア初級講座の実施、学生視点の広報活動への支援、大学の持つ知的財産を地域に還元する取り組みなどを計画しています。



ペットボトルキャップの回収



ボランティア（ふれあいひろばのオタスケ隊）

## 学生サポートチーム

**地** 域交流センターの活動を主体的に支えるのが学生サポートチームです。今年度の学生サポートチームは、社会福祉学科3年生をリーダーとして各学科の学生有志14人で構成され、ボランティアに参加する学生やボランティア協力サークルとの調整、支援を行っています。

また、学生サポートチームが地域の皆さんと協力して継続的に行っている活動として、ペットボトルキャップの回収があります。ペットボトルキャップの取り組みは地域でも徐々に認知され、昨年度は地域の事業所から地域交流センターに持ち込まれたキャップ重量は1トンを超え、ポリオワクチンなどに形を変えて途上国の子どもたちに届けられています。

## ボランティア活動に関わる学生とサークル

**栄** 養・看護・社会福祉・児童学科の1・2年生39人が、ボランティア活動の協力学生として登録しています。「北新区子供育成会の資源回収」や「特別支援学級連絡協議会による合同宿泊体験学習」など30件以上のボランティアが、そのうちの5割程度のボラン

ティア活動に延べ150人ほどの学生が参加しています。

また、国際ソロプチミスト名寄の支援を受け、今後、人形劇サークル「仔やぎ」など7サークルが地域のボランティア活動に積極的に参加する予定です。

## 学生視点の広報活動

**毎** 週月曜日掲載の地元新聞コラム「名大の時間」に、ボランティア活動に参加した学生の感想や名寄での学生生活の印象など、学生視点からの記事を連載させていた、だいています。「名大の時間」は平成21年6月にスタートして、この9月には連載110回を超えようとしています。

また、FMなよろのご好意のもと「FM名大」などの番組制作に学生が直接関わる機会もいただいています。これらの広報活動を通して、専門職に就くことを目指して名寄で学生生活を送る若者たちの生の声が地域の方々に届くことを期待しています。

**今** 後も地域によって育まれる大学、地域とともに歩む大学、地域の発展をリードできる大学を目指して、地域交流センターは地域と連携しながら活動を推進していきます。